

御経塚オツソ遺跡

調査面積	1,676 m ²
調査期間	令和4年9月1日～令和5年1月13日
遺跡の種類	集落跡
遺跡の時期	縄文、弥生、中世
主な遺構	たてあな ^{たてあな} たてもの ^{たてもの} の ^の 掘 ^{ほり} 建物 ^{たてもの} 、ぬ ^ぬ の ^の ぼり ^{ぼり} たてもの ^{たてもの} 、ほ ^ほ った ^た て ^た ば ^ば しら ^{しら} たてもの ^{たてもの} の ^の 掘 ^{ほり} 立 ^た 柱 ^{ちゆう} 建物 ^{たてもの} 、溝、土坑、ピット(小穴)、流路など
主な遺物	縄文土器、弥生土器、 ^だ せ ^{せい} い ^い せ ^せ き ^き ふ ^ふ 、 ^く だ ^だ たま ^{たま} (未成品や剥片含む)

概要

御経塚オツソ遺跡は弥生時代後期(約1800～2000年前)を中心とするムラの跡です。過去に平成元年と8年に発掘調査が行われて以来26年ぶりに調査を行いました。

調査では弥生時代の建物跡や大きな溝などを確認しました。建物跡としては地面を掘り下げて床面を設ける竪穴建物や地面を掘り下げず建物の周りに溝を設ける平地式建物が認められました。それぞれの建物跡からは煮炊きに使用した^{かめ}甕や盛り付けに使用した^{たかつき}高坏などの土器を数多く発見しました。

また土器のほかにも、凝灰岩でできた管玉など玉製品(アクセサリー)や、玉製品を作る際に生じた剥片が多数見つかったことから、御経塚オツソ遺跡では玉製品を作るムラであったことがより明確になりました。



遺跡の所在地



みつかった管玉と玉の素材となった凝灰岩



弥生時代の平地式建物



穴からみつかった弥生土器